



東洋遺稿

曾  
651







故小野梓先生肖像

故小野梓先生遺墨

病毛は帰し後熟思ふよ畢竟斯く藩聽の東傳と受くるに必竟帯  
 刀の身不て士かの列不存れに然るなり（帯刀を以て奉入たす）士林と稱し平人と為し  
 身と自由ならずと今の上策なりと或る日其由と萱芸家兄等不話し  
 平人の顔と出すことと為たりき然るに伊垣公之を聞き屈けるまき考め據存  
 く他家へ養子不往躰不て平人と為りたりきこの平人不考る事ヲ執きて人  
 と大抵その短氣なるを戒め今時ハ平人でせよ士林不為りたり思ひ脚ざし  
 の一本も差し養思ふ世の中なる不態 帯刀と抜き捨て平人と考るとハ  
 滅志得達しなむ由とさきやきたれども余に於て見る所ありしにわし我の  
 心不まき世に笑わしと堅く乞ひ遊ぶ平人と云ふべき

故小野梓先生ノ遺稿中自家ノ經歷ヲ手記セル一冊子アリ  
 右ニ掲ゲシハ其一節ニシテ手跡ノ儘ヲ寫眞石版ニ附セシ  
 モノナリ



明治十五年二月三日 東洋學人筆記

宣言

大詔一降、天下ノ勢定マシ、我儕近時ノ日本人民ハ、万世一遇ノ盛時ニ遭ヒ、今時ニ立憲ノ治下ニ生息セントス、顧フニ、此際如何ノ計畫ヲ為シ、如何ノ職分ヲ尽シ、日本人民タルニ愧ヅルコトナキヤ、他ナリ、唯一團ノ政黨ヲ結ビ、相授ケ、相援ケテ、政治ノ針路ヲ指點シ、其真正ノ方嚮ニ向ハシムヘキ耳、来シ我カ大日本國民ニ、来リテ汝ノ政變ヲ結ビ、爾カ國民タルニ職分ヲ尽セヨ、幸福ハ、人衆ノ以テ得ンコトヲ期スル所也、然シ



トモ少数專有ノ幸福ハ我党コレヲ排ス蓋シ斯  
ノ如キ、幸福ハ所謂ハ利己ノモノニシテ我党  
ノ所得ナシ王室ノ尊榮ト人民ノ幸福ハ及大  
レハ也王室ノ尊榮ト人民ノ幸福ハ我党ノ以テ  
謀ルヲ期スル所也然レトモ少数<sup>時</sup>暫且ノ尊榮幸  
福ハ我党コレヲ却リ蓋シ是ハ如キ、尊榮幸福  
ハ所謂ハ遺害ノモノニシテ我党<sup>ハ</sup>所望ナシ且  
我党ノ尊榮ト遠永ノ幸福ニ及レハ也是ヲ以テ  
夫ノ一二私党ノ我日本ヲ專ニシ王室ノ尊榮ト  
人民ノ幸福ヲ蔑ニスルモノハ我党ノ目シテ以

公敵ト為ス所也是ヲ以テ夫ノ目前ノ苟安ヲ偷  
ニ遠永ノ福言ヲ顧ミス一時ヲ皆クモスルモノ  
ハ又我党ノ目シテ以テ公敵ト為ス所也我党ハ  
實ニ王室ノ無害ニ保持スルヲ尊榮ト人民ノ遠  
永ニ享有スルヲ幸福ヲ謀ルヲ以テ斯改党ヲ團  
結スルノ最大目的トス夫レ我同感ノ人未リテ  
我改党ヲ結ビ夫ノ尊榮ト夫ノ幸福トヲ謀ル  
人生心身ノ自主ハ我党ノ保全シテ我最大目的  
ニ達スルヲ楷標ト為シトスル所也蓋シ夫レ人







施セント欲スレハ性々ニシテ社會ノ秩序ヲ紊  
亂シ却テ其進行ヲ妨碍スルモノアルヘケレハ  
也是ヲ以テ夫ノ急撥ヲ競ヒ徒ラニ激昂ヲ務ム  
ルモノト如キハ我党ノ卻テ共ニ其進路ヲ失  
ニセサルモノ也我党ハ實ニ推理ニ依テ其順序  
ヲ定メ方便ヲ利用シテ其定マル所ヲ實施セン  
トス来レ我党ノ人来リテ天地ノ道理ヲ推窮シ  
以テ我順序ヲ一定シ又来リテ隨時ノ方便ヲ利  
用シ以テ其定マル所ヲ實施セヨ  
之ヲ要スルニ我儕ハ斯一團ノ政党ヲ結ヒ我帝

室ノ無窮ニ保持スヘキ尊榮ヲ謀リ我民人ノ處  
永ニ享有スヘキ幸福ヲ求メ人生心身ノ自主ヲ  
保全シ推理シテ順序ヲ定メ方便ヲ利用シテ之  
ヲ天下ニ施サントス来レ我カ大日本國民ヨ来  
リテ共ニ<sup>爾</sup>ノ職分ヲ尽シ<sup>爾</sup>ノ事ヲ計畫セヨ